

# ■妨害(インターフェアレンス)ノンプライオリティ時

プライオリティ採用の場合、P.25を参照

波のインサイドポジションを獲得した選手はその波を乗り終えるまで、絶対的な優先権を得ることになります。この時、対戦相手の選手が、優先権を持つ選手の得点の可能性を妨げたと大多数のジャッジが判断した場合、インターフェアレンスがコールされます。

## ○妨害を判断するにあたっての基本的な姿勢

1. 妨害に関するルールは、正当な権利を持つ選手を保護するためにあり、積極的に妨害の罰則を科すためのルールではありません。
2. ジャッジはルールを良く理解し、全ての選手に対して公平な判断をしましょう。
3. 妨害のルールに抵触するような行為があった場合、それが成立するか否かを必ず判断しなければなりません。

## ○妨害を判定する基準及び順序

1. どのような波か？(ライトブレイク、レフトブレイク、オーブンブレイク、マルチピークブレイク)
2. どの選手に優先権があるのか？
3. スコアリングポテンシャルを妨げたか否か？
4. どの妨害のルールに当てはまるのか？

以上の順番で妨害の判断をしてください。

## ☆重要なポイント☆

1. 優先権を決定しているのは、あくまでも選手の波に対するポジションであって、どちらが先にスタンディングしたのかではありません。
2. 基本的にインサイドポジション(波のピーク側)にいる選手にその波の優先権があります。
3. 妨害は状況や物理的接触だけではコールされません。あくまでも優先権がある選手のスコアリングポテンシャルを妨げたかどうかで判断します。
4. ヒート終了後の選手が競技中の選手のライディングを妨げた場合、ジャッジはその選手に妨害をコールする。

## ○優先権について

優先権は各会場の波の状況により決定され、次のカテゴリーに当てはめられます。また、優先基準の選択は、そのヒートを担当するジャッジの大多数で決定されます。基本的にはジャッジがその波をライトウェーブかレフトウェーブなのかを見極め、どの選手がインサイド・ポジションにいるかを判断します。

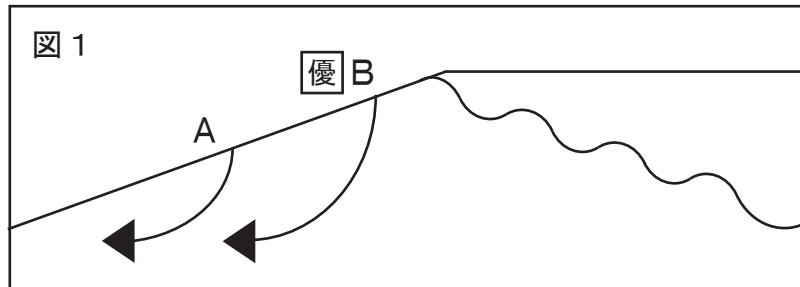
ジャッジはブレイクの方向を判断するにあたり、入ってきた波の形を見て、スコアリングポテンシャルは(得点の可能性があるのは)ライトまたはレフトのどちらへ向かった方がより高得点を得る可能性があるのかで決めます。また、優先権は波の形とその波に対しての選手のポジションで決定されます。もしテイクオフする時点で波がライトかレフトかはっきりせず、ピークのない波の場合、最初にテイクオフをし、明確な進行方向へターンをした選手がその波の優先権を得ます。

## <各ブレイクによる基本的な優先権の考え方>ノンプライオリティ時

### a. ポイントブレイク

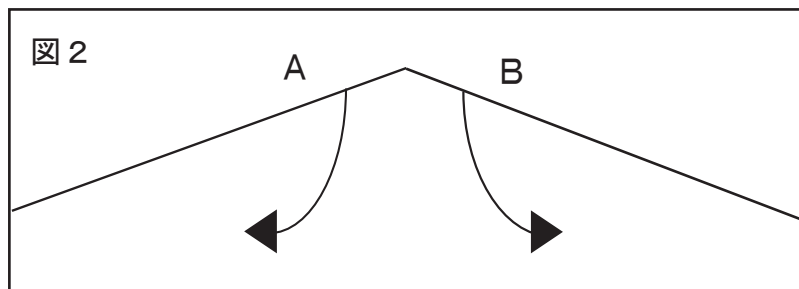
波が一方方向にしかブレイクしない場合は、インサイドにいる選手がその波の優先権を得ます。

下の例ではテイクオフやターンをした時点にかかわらず、インサイドにいるB選手が優先権を得ます。  
(図1)

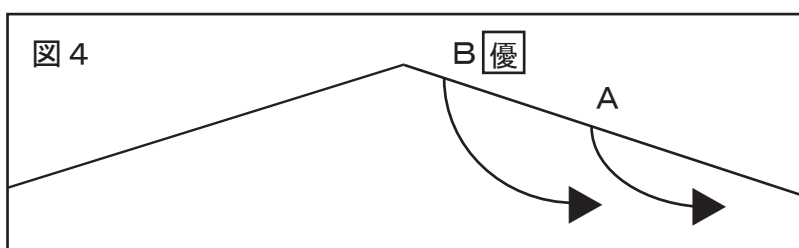
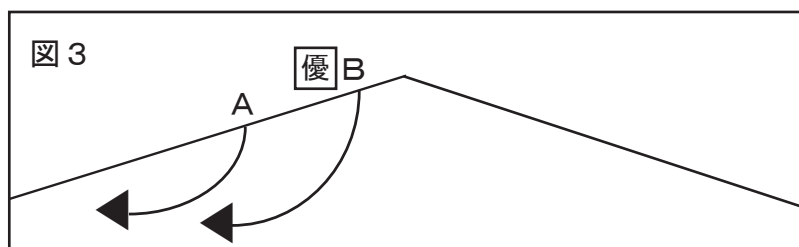


### b. シングルピークブレイク

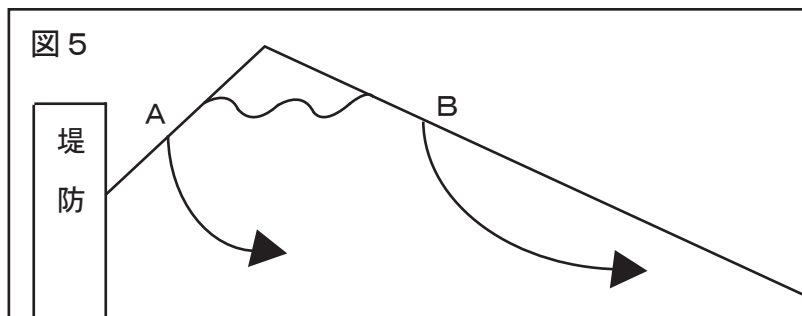
(1) ライトとレフト両方向にブレイクする完全なピークが1つある場合、テイクオフする選手のポジションにより優先権が決定されます。(図2)



(2) 同じ方向にライディングをした場合、その波のインサイドのポジションにいるB選手が優先権を得ます。(図3、図4)

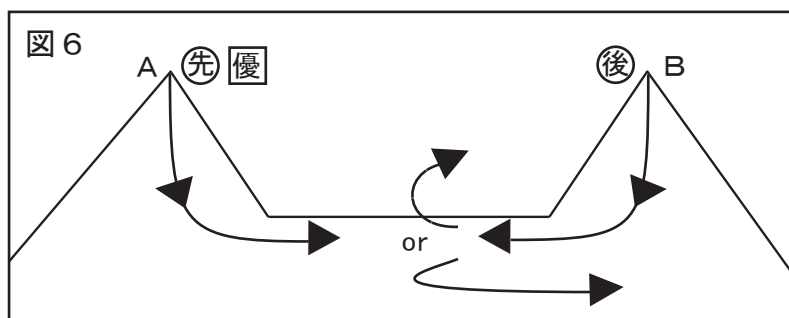


(3) ライトにスコアリングポテンシャルがない場合、A選手が優先権を得る場合があります。(図5)



### c. マルチ・ピークブレイク

1つのうねりで互いに十分に離れたところにある2つのピークが、後からどこかのポイントで1つに交わってしまう場合があります。2人の選手が別々のピークの各インサイドポジションにいる時は、最初にテイクオフした選手がその波の優先権を得ます。続いてテイクオフした選手は、最初の選手を妨げる前にカットバックやプルアウト等で進路を譲らなければなりません。(図6)



<2人の選手が別々のピークから同時にテイクオフした場合>

1. 双方の選手がライディングをやめた場合は、妨害にはなりません。
2. 互いの進行方向を横切ったり、衝突した場合、危険回避を怠った選手に対し妨害をコールします。
3. 互いにライディングをやめずに危険回避を怠った場合には、双方の選手に対してダブルインターフェアレンスがコールされることがあります。

<互いに優先権がなく、波が途中で1つに交わる場合>

ライディング中に波が途中で1つになり、2人の選手で追いかける形になった場合、波の方向性によって選手の優先権が決まります。

## ■妨害のルール(ノンプライオリティ時)

### ○ドロップイン妨害

その波の優先権がある選手に対し、他の選手はその選手と同じ波の前方でテイクオフし、進路を妨げてはいけません。

### ○スネーキング

テイクオフできる波のインサイドで、その波の優先権がある選手に対し、他の選手がその選手の後方でテイクオフすること。

1. テイクオフできる最もインサイドのポジションで、波の優先権を確立した選手にその波でのライディングを続ける権利があります。これは他の選手がより奥から続いてテイクオフした場合でも変わることはありません。また、最初に優先権を得た選手が他の選手の前にいる時でも優先権があるため、妨害とはなりません。
2. 後からテイクオフした選手が優先権のある選手を妨害せずにライディングした場合は、妨害のペナルティは科さず、両方の選手のライディングについて得点を与えます。

### ○パドリングインターフェアレンス

パドリングをしている選手は、同じ波のインサイドにいる選手を妨げてはいけません。また選手がゲッティングアウト中に他の選手のライディングを妨げた場合、これが故意か否かは各ジャッジにより判断されます。

<パドリングインターフェアレンスの事例>

1. 物理的接触：インサイドにいる選手がパドリングをしている最中に接触したとき。ただし、波の状況によって接触があってもインターフェアレンスにならない場合もあります。（イーブンシチュエーションでピークのない波の場合など）
2. パドリングラインの変更：インサイドにいる選手の位置を変えさせたとき。
3. セクションのブレイキングダウン：インサイド側にいる選手の前で波を崩したとき。
4. 次のヒートの選手がゲッティングアウト時に競技中の選手のライディングを妨げた場合、ジャッジはその選手に妨害をコールする。
5. ヒート終了後の選手が競技中のエリアから離れずに海から上がる際、競技中の選手のライディングを妨げた場合、ジャッジはその選手に妨害コールをする。

### ○ダブルインターフェアレンス

下記の場合、ジャッジはその状況を判断しダブルインターフェアレンスをコールする場合があります。

1. シングルピークでの同時テイクオフ  
お互いに積極的に接触を回避しない場合。
2. マルチ・ピークブレイクでの同時テイクオフ  
どちらにも優先権がない状況で互いに向き合って進み、積極的に接触を回避しない場合。
3. パドリング時の過度な両者のハッサリング

### ○マキシмумオーバー時に起こりうる妨害

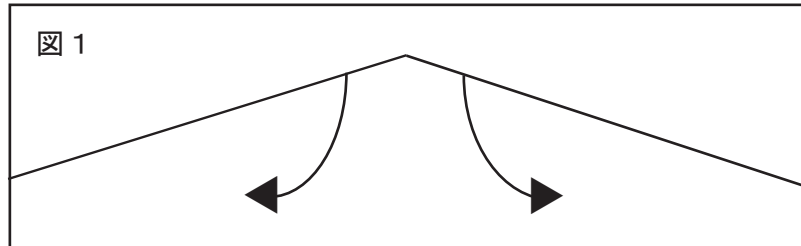
マキシмумウェーブに達した選手は速やかに競技エリアから離れなければなりません。競技エリアに留まり下記行為を行った場合、ジャッジは妨害をコールします。

1. 明らかに他の選手の乗る波を奪った場合。
2. パドリングやポジショニングなどで他の選手のスコアリングポテンシャルを妨げた場合。

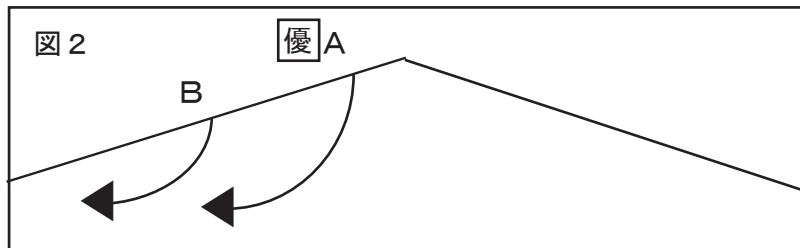
## ＜各ブレイクによる基本的なノンプライオリティ妨害の事例＞

### a. シングルピーク

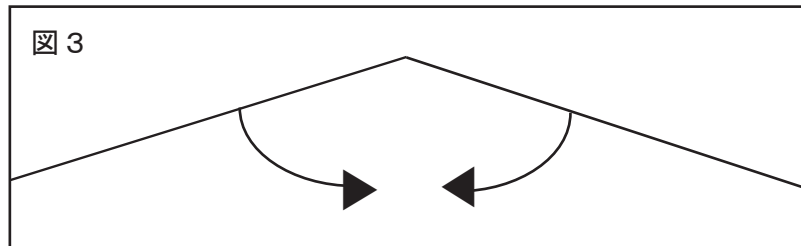
1. 2人の選手が互いに反対方向へ進んだ場合は妨害とはなりません。（図1）



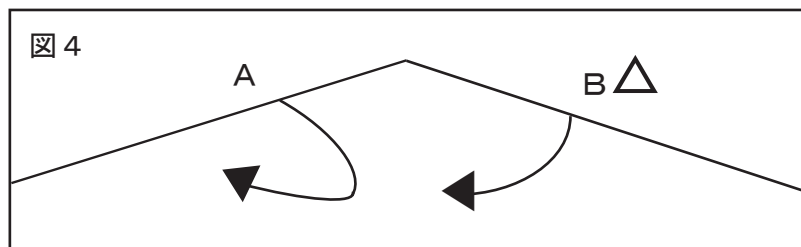
2. テイクオフの先、後にかかわらず波のインサイド側のA選手に優先権があります。ただしB選手がライディングを中止し、A選手のライディングに支障がなければ妨害とはなりません。（図2）



3. 2人の選手が同時にテイクオフした場合、積極的に接触を避けようとしなかった選手（危険回避行動の義務違反）は妨害となる場合があります。（図3）

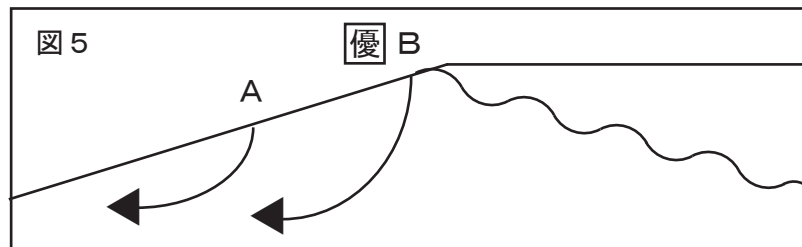


4. 2人の選手が同時にテイクオフし、A選手はライディングをやめたが、B選手がA選手の方角にライディングを続けた場合、B選手は妨害となる場合があります。（図4）



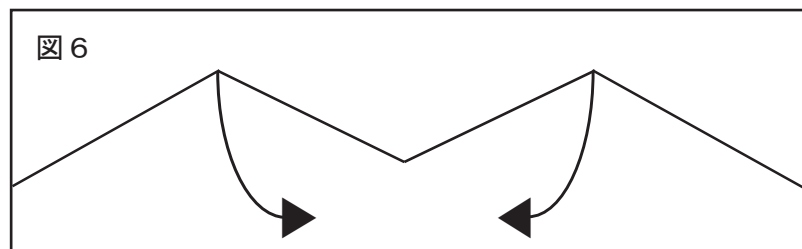
## b. ポイントブレイク

波のインサイド側のB選手に優先権があり、A選手のライディングがB選手のライディングに支障があればA選手は妨害となる場合があります。（図5）



## c. マルチ・ピークブレイク

1. 2つのピークのある波で、それぞれのピークから2人の選手がテイクオフし、互いの方向に向かって進んだ場合、先にテイクオフした選手が優先権を得ます。ただし、先にテイクオフした選手のライディングに支障がなければ妨害とはなりません。（図6）

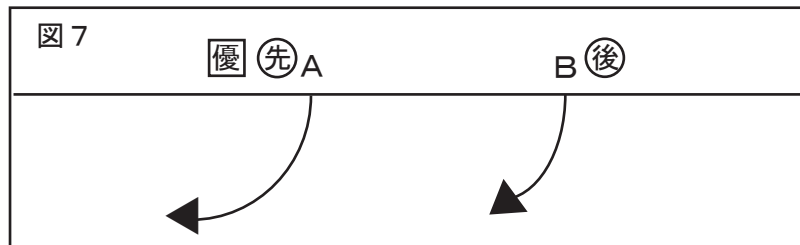


2. 2人の選手が同時にテイクオフした場合、積極的に接触を避けようとしなかった選手は妨害となる場合があります。ただし、双方の選手が接触を避けるためにライディングをやめた場合、どちらか一方あるいは双方がワイプアウトしても妨害とはなりません。
3. 2人の選手が同時にテイクオフした場合、A選手は接触を避けるために真下に下ったのに対し、B選手がそのままライディングを続けた結果、ラインがクロスするかまたは接触があればB選手の妨害となる場合があります。

## d. オープンブレイク

波がライトかレフトかはっきりせずピークのない波の場合、先にテイクオフした選手が明確な進行方向へターンをした時点で優先権を得ます。

同一方向へ2人の選手がテイクオフした場合、先に進行方向にターンをしたA選手が優先権を得ます。B選手のライディングがA選手のライディングに支障があれば、B選手は妨害となる場合があります。（図7）



また、2人の選手が同時にテイクオフし、互いに相手に向かって進んで行った場合、積極的に接触を避けようとしなかった選手は妨害となる場合があります。

## ○妨害に関するペナルティ

1. インターフェアレンスの判断は、ヘッドジャッジを含めたそのヒートを担当するジャッジの大多数で決定されます。
2. インターフェアレンスをしたライディングは集計対象ウェーブからカットされます。また、その選手の得点は、ベスト2ウェーブからセカンドベストスコアを1/2減点して集計されます。
3. 妨害を受けた選手は定められた競技時間内であれば、マキシマムウェーブに追加してエクストラウェーブが与えられます。ただし、ダブルインターフェアレンスの場合を除きます。
4. 同じヒートでインターフェアレンスを2回した選手は、ヘッドジャッジのコールにより直ちに競技エリアから離れなければなりません。  
※但し、エリアから離れない選手に対しては、競技規定第23条に基づきペナルティを与える。



## ■集計時の注意点

＜ジャッジペーパーに妨害マーク（△または▲）がある場合＞

妨害はそのヒートを担当したジャッジの大多数の判断で成立します。妨害の成立、不成立の判断は下記手順でジャッジシートを確認してください。

1. 妨害マークが同じライディングについているか、矢印が同じウェーブを指しているか。
  - ・ ジャッジシート下のシチュエーション図ではなく、スコアにある妨害マークを見てください。
  - ・ 同じ妨害の判定でもジャッジの見解が分かれる場合もあります。（妨害マークと矢印がシートによっては反対になっていることもあります。）
2. 同じ妨害の見解が大多数になっているかを確認してください。
  - ・ 大多数に達していない妨害のコール（例：3人がコールなしに対し1人のみコール）は不成立です。
  - ・ 妨害の見解は同数で割れる場合もあります。その場合はヘッドジャッジが成立または不成立を確認し、インターフェアレンスシートを記入し提出して下さい。

＜妨害が成立した場合の集計方法＞（集計用紙の処理は前ページを参照してください。）

1. 妨害をした選手のライディングは集計対象ウェーブから除かれます。
2. 妨害をした場合、ベスト2ウェーブにおける集計（ベストスコア+セカンドベストスコア）1度の妨害は全てセカンドベストスコアが減点の対象となります。
  - ・ ノンプライオリティインターフェアの場合、1/2カット
  - ・ プライオリティインターフェアの場合、スコアが無くなります。

2度目の妨害があった場合は下記のようになります。

- ・ ノンプライオリティインターフェアを2回行った場合。  
妨害が成立したライドは集計でカットされ、ベスト2ウェーブのベストスコアが1/2 + セカンドベストスコア1/2を集計し順位を決める。
- ・ プライオリティインターフェアを2回行った場合。  
妨害が成立したライドは集計でカットされ、ベスト2ウェーブのベストスコアが無くなり + セカンドベストスコアも無くなり0点で集計され順位を決める。
- ・ 2回の妨害が混合した場合。（1度目がノンプライオリティインターフェアで2度目がプライオリティインターフェア。又はその逆の場合。）  
妨害が成立したライドは、集計でカットされ妨害状況の順番に関係無くベスト2ウェーブのベストスコアが1/2 + セカンドベストスコアが無くなります。

また、妨害を2回犯した選手は速やかに競技エリアから出なければ成らない。

※NSA公認大会では失格ではなく妨害が成立したラウンドの確定順位までのランキングポイントが付与されます。選手がアナウンスに従わず他の選手の妨げに成ったとジャッジが判断した場合、競技規定 第22条（アンスポーツマンシップ）に抵触する場合があります。

※特殊な事例として、妨害を1回犯した選手がベストスコア1本しか持たない場合、（セカンドベストスコア無し）罰則対象となるセカンドベストスコアが無い為、ベストスコアをそのまま集計し順位を決めます。同じヒートにノーライドの選手がいた場合、妨害が成立した選手にライドがあればノーライド選手より上の順位と成ります。

3. パドリング妨害（P△）が成立している場合。
  - ・ パドリング妨害しそのままライディングしたスコアは、妨げた選手の集計対象から除外します。
  - ・ ライディングのないパドリング妨害は、妨げた選手のスコアの除外はありません。